

第26回社会福祉研究交流集会in京都

コロナパンデミックが浮き彫りにした社会と福祉—どう変えていくか

1日目

13:30~15:00

あまみや

かりん

● 記念講演 **雨宮 処凛** さん

作家・「反貧困ネットワーク」世話人

15:10~16:40

● シンポジウム

「コロナ禍であきらかになった福祉施策の大切さと脆弱さ」

新井 康友さん（佛教大学）

「コロナ禍での障害者の暮らしの実態」

宮永まゆみさん（京都府視覚障害者協会）

「コロナ禍の下でのシングルマザー・若者・学生の困難と必要な制度・対策について」

寺内 順子さん（シンママ大阪応援団、大阪社会保障推進協議会事務局長）

2日目

8月29日（日）分科会・講座 10時~15時予定

① コロナ禍の福祉労働と専門性

小堀智恵子さん（熱田福祉会）

小林新一郎さん（七野会）

清水俊朗さん（全国福祉保育労働組）

② 現場から考えるジェンダー

井上ひろみさん（七野会）

三石美由さん（修光学園）

阿部素子さん（樹々福祉会朱い実保育園）

コメンテーター：三島亜紀子さん（立命館大学生存学研究所）

③ 未来をひらくあたらしい福祉運動

茨木範宏さん（社会福祉経営全国会議）

小松康則さん（大阪府関係職員労働組合）

櫻庭葉子さん（よりよい介護をつくる市民ネットワーク）

④ 今こそ明確に 健康で文化的な最低限度の生活

大口耕吉郎さん（全大阪生活と健康を守る会連合会）

加納忠さん（大阪年金者組合）

坂田徹さん（京都府社会福祉協議会）

小出新一さん（全国手話研修センター）

⑤ 【入門講座】 ビデオ探訪と講義

-京都にながれる福祉の伝統に学ぶ-

丹波 史紀（立命館大学）

日程

2021年8月28日（土）~8月29日（日）

開催方法

オンライン開催（ZOOMを使用します）

参加費

5,000円（学生・障害者3,000円）

申込み方法

総合社会福祉研究所ホームページ「お知らせ」欄よりご登録いただくか、

<http://www.sosyaken.jp/hiroba/news/2021/07/kenkou26.php>

右記のQRコードを読み取ってご登録ください。

主催

総合社会福祉研究所 TEL 06-6779-4894 FAX 06-6779-4895 E-mail: mail@sosyaken.jp

〒543-0055 大阪市天王寺区悲田院町8-12 国労南近畿会館3F

第26回社会福祉研究交流集会in京都実行委員会



開催要項

テーマ コロナパンデミックが浮き彫りにした社会と福祉
～どう変えていくか～

実行委員長挨拶

新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有のパンデミックのなかで、昨年度は残念ながら社会福祉研究交流集会在開催できませんでした。

いまま感染状況は収束せず、一進一退を続ける状況にあります。今年度はオンラインで集会を開催することとなりました。

これまでにないまったく新しいかたちでの集会開催に、実行委員会一同慣れない運営になるかもしれませんが、リアルでの開催に負けないほど企画を充実させていこうと決意しています。

福祉現場で日夜奮闘されているみなさん、福祉に関わる研究者・院生・学生のみなさん。ぜひ今年の社会福祉研究交流集会にご参加ください。



(立命館大学教授 丹波史紀)

日程 2021年8月28日(土) 13時～16時40分、29日(日) 10時～15時

開催方法 オンライン開催 (ZOOMを使用します)

参加費 5,000円 (学生、障害者 3,000円) ※1日のみ参加・両日参加ともに同料金です。

申込締切 8月20日(金) ※参加費のご入金を確認の上、資料集とZOOMアカウントをお送りします。

申込方法

ネットで「総合社会福祉研究所」と検索しクリック!!

ネット検索結果画面 (sosyaken.jp) から検索結果をクリック

総合社会福祉研究所のホームページ (HP) を下に移動すると、「福祉のひろばからのお知らせ」欄に申込みページがあります。

「福祉のひろばからのお知らせ」欄のイベント一覧から申込みページをクリック

右記のQRコードを読み取ってのご登録もできます。

お問合せ先 総合社会福祉研究所 TEL : 06-6779-4894 FAX : 06-6779-4895 Mail : mail@sosyaken.jp

第 1 日目 8 月 28 日 (土) 全体会 13 時～16 時 40 分

12:30～ 受付 (ZOOM に入室していただけます)

13:00～ 開会セレモニー、基調報告

13:30～ 記念講演 雨宮処凛さん

〈プロフィール〉 雨宮処凛さん

1975 年、北海道生まれ。

作家・活動家。フリーターなどを経て 00 年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』(太田出版/ちくま文庫)でデビュー。06 年からは貧困問題に取り組み、『生きさせろ! 難民化する若者たち』(07 年、太田出版/ちくま文庫)は JCJ 賞(日本ジャーナリスト会議賞)を受賞。

著書に『「女子」という呪い』(集英社クリエイティブ)、『非正規・単身・アラフォー女性』(光文社新書)、『ロスジェネのすべて 格差、貧困「戦争論」』(あけび書房)、『相模原事件裁判傍聴記 「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ』(太田出版)など多数。

2020 年以降のコロナ禍では、4 月より「新型コロナ災害緊急アクション」メンバーとして生活困窮者の支援に取り組む。最新刊は『コロナ禍、貧困の記録 2020 年、この国の底が抜けた』(かもがわ出版)。

15:15～ シンポジウム コロナ禍の福祉・暮らし 貧困の実態

コロナウイルス感染拡大によって、私達の暮らしは様変わりしました。いっぽうで、これまでの社会保障・社会福祉への改悪がもたらした影響がさまざまな実態で溢れ出ています。高齢でコロナに罹患すれば、トリアージが行われます。障害を持つ子どもと親が、介護疲れから無理心中を凶っています。また、長引くコロナの影響によって、女性の自死が急増しています。その背景には、他者との交流がしづらく、悩みを共有する機会を失い、将来への経済的な不安を抱えている人の増加があります。

いま、わたしたちの暮らしはコロナの出現によってどうなっているのか、シンポジストの方々に報告いただき、わたしたちの暮らしに何が必要なのか深められればと思います。

【報告者】

新井 康友さん(佛教大学)「コロナ禍であきらかになった福祉施策の大切さと脆弱さ」

宮永まゆみさん(京都府視覚障害者協会)「予定コロナ禍での障害者の暮らしの実態」

寺内 順子さん(シンママ大阪応援団、大阪社会保障推進協議会事務局長)

「コロナ禍の下でのシングルマザー・若者・学生の困難と必要な制度・対策について」

【コーディネーター】加美 嘉史さん(佛教大学)

第2日目 8月29日(日) 分科会・入門講座 10時～15時

9:30～ 受付(それぞれの分科会にZOOMで入室していただけます)

10:00～15:00 終了予定(各分科会で適時休憩と昼食時間をはさみます)

第1分科会 コロナ禍の福祉労働と専門性

新型コロナ禍において、福祉分野に従事する職員が、エッセンシャルワーカーといわれる一方、限られた職員配置基準の中でのコロナ対策によって、職員の緊張や疲労が極限にきています。このような緊急事態だからこそ、福祉労働の専門性とは何か、本来あるべき福祉労働者の労働条件・待遇について考え、語り合う必要があります。

この分科会では、コロナ禍で専門性を担保している福祉労働の実践とともに、労働組合の立場からも報告してもらい、福祉労働の専門性について学びます。

【報告者】

小林 新一郎さん (社会福祉法人七野会)

小堀 智恵子さん (社会福祉法人熱田福祉会)

清水 俊朗さん (全国福祉保育労働組合)

【進行】新井 康友さん(佛敎大学)

橋本 信夫さん(社会福祉法人七野会)

第2分科会 現場から考えるジェンダー

【報告者】

井上 ひろみさん (社会福祉法人七野会)

阿部 素子さん (保育:社会福祉法人樹々福祉会
朱い実保育園)

三石 芙由さん (社会福祉法人修光学園)

【コメンテーター】三島 亜紀子さん

(立命館大学生存学研究所)

【コーディネーター】

岡部 茜さん (大谷大学)

中野 加奈子さん (大谷大学)

社会福祉労働ではこれまで「ジェンダー」の視点から支援場面を考える機会は多くはありませんでした。しかし私たちは生活のなかで、「男性」あるいは「女性」だからこうであるはず、「夫」だから「妻」だからこうであるはず、といったジェンダー役割を期待されることで、生活を制限されたり悩むことがあります。また、支援者の側も自分の性のアイデンティティのために、支援場面で戸惑ったり立ち止まったことがあるかもしれません。

この分科会では、利用者の生活問題の中の「ジェンダー問題」や支援者が直面する問題について語り合い、いま、現場で何が起きているのか明らかにしていきます。また、「ジェンダー」の視点から福祉労働を考える重要性について学び合います。

第3分科会 未来をひらく新しい福祉運動を見ずえて

今、コロナ禍の中で、新しい福祉運動の息吹や動きが起こりつつあります。考えや歩みの異なる5団体がよりよい介護をつくるという一致点で力をあわせ創意的な活動を模索する経験。権利としての社会福祉を追求する立場に立った社会福祉の経営者団体をコロナ禍の中で立ち上げた経験。自治体公務員が減らされてきたことが命を救えない状態を生み出していることを市民に伝え保健師を増やすキャンペーンに踏み出した公務員労働者の運動。この分科会では、これらの諸運動の経験をもとに、分科会参加者と議論し、住民とともに歩む新しい福祉運動の可能性を見出したいと思ひます。

【報告者】

茨木 範宏さん (社会福祉経営全国会議)

小松 康則さん (大阪府関係職員労働組合)

櫻庭 葉子さん (よりよい介護をつくる市民ネットワーク)

【コーディネーター】

石倉 康次さん (立命館大学)

堤 昭子さん (社会福祉経営全国会議)

谷本 樹保さん (全国福祉保育労働組合)

第4分科会 「今こそ明確に 健康で文化的な最低限度の生活」

【報告者】

大口 耕吉郎さん (全大阪生活と健康を守る会連合会)

加納 忠さん (大阪年金者組合)

坂田 徹さん (京都府社会福祉協議会)

小出 新一さん (全国手話研修センター)

【コーディネーター】

志藤 修史さん (大谷大学)

鴻上 圭太さん (大阪健康福祉短期大学)

コロナ禍において、医療・介護その他の社会福祉・生活保障サービスが享受できない状況が起こり、労働環境では解雇、雇い切り、賃金の大幅引き下げが起こっています。年金生活者は、年金額は低ながらも安定しているように見えますが、今後、さらに年金額の引き下げが懸念されます。これらの背景には、コロナ禍あるいはそれ以前の政策の問題、また資本金・大企業による中小企業、労働者支配があります。

本分科会では、それらの背景を明確にしつつ、今日的な「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのようなことが保障された生活なのか、それらを今一度明確にし、市民運動、労働組合運動、そして社会福祉運動をどう繋げていくのか、その争点と共同の視点を見出したいと考えております。

入門講座 ビデオ探訪と講義—京都に流れる福祉の伝統に学ぶ—

本講座では、社会福祉に入職して間もない方を対象に開催いたします。京都に流れる福祉のながれをたずね、各法人の設立経緯や実践への取り組み等のお話を放映します。福祉に何ができ、どこまでできるのか参加者の方々と深められればと思ひます。

【放映内容の予定】

よさのうみ福祉会、舞鶴学園の設立経緯や実践の内容について

【講師】丹波 史紀さん (立命館大学)